

園長だより

「おおぞらの音楽教育について」

私が園長に就任した25年度、おおぞら保育園の音楽領域には多岐にわたる教育内容があり、リズム、うた、リトミック、器楽(楽器を使う)そして当時、力を入れて取り組んでいこうとするわらべうたがあり、指導計画の中に幾つもの教育内容が存在していた。

当時は保育内容再編の兆しがでてきた頃ともいえ、音楽教育の方向性を出す過渡期にあたる時期に入っていました。

「職員の実践的な学習がスタート」

26年度から本格的にわらべうたの学習機会をつくり、子どもたちの生活に取り入れ定着させ今日まで継続しています。

わらべうたの講師を定期的に招き、子どもと達との実践の指導を受け、保育内容に反映することを繰り返し行ってきました。

前回の便りでも記述しましたが新たに取入れ、力を入れていこうとする内容(活動)と以前から存在する活動を吟味し、検討し子ども達にとって最善の方向性を見出ししていく過程にあります。



「わらべうたについて ①」

一般的に保護者の皆様はわらべうたと聞き連想することは

- ・子どもの頃遊んだもの
- ・遊び歌や伝承遊び

と思う方が多くいることでしょう。

大方、私もこの職業に就く前は、遊びのツールにしか思っていませんでした。

実はわらべうたは子どもたちの成長過程で獲得していく様々な内容が具備されているといえるでしょう。わらべうたの音楽教育については相当の紙面をつかうだろうと思います。

「保育者の地点で考えると」

人として生きていく中でつつまれ、愛され、だいじにされ、同じ空間、時間を過ごす人、楽しさの共有、耳から入る心地よい言葉、ふれあいの中で感じる愛情とあたたかさを感じられるもの

ちいさいときから一貫して大切にしてきたものにわらべうたがあると言えます。

「現在、音楽教育は」

現在、最高学年5歳児は従前の音楽的教育を継続しています。わらべうたを音楽教育の中心と据えながらも、リズム楽器の経験、器楽では鍵盤ハーモニカ(ピアノカ)ピアノカは基本的な演奏の仕方を知り、階名の位置を覚え演奏するというものです。

3,4歳児においてはわらべうたを音楽教育の中心と据え、従前の教育内容からの移行をはかっています。

※保育園ホームページのブログにて

「わらべうた、課業」で簡単ではありますが教育的内容を掲載しております。

「保育所保育指針の改定に準じて」

平成30年度保育所保育指針が改定されます。今年度、告知され来年度から施行されます。

(保育士保育指針とは厚生労働省が示す運営や保育内容の指針となるもの)

改定を受けて、保育内容の大きな変化はありませんが乳幼児期は生活の中で自発的、主体的に環境に関わりながら生涯にわたる人格形成の基礎を築いていく時期であり、主体的な遊びを中心とした教育的活動が望ましいとされます。

「これからは」

音楽の領域に限らず、開園当初から積み上げてきた保育内容を吟味し振り返り、再編していくことが必須の課題となっています。

ここでご理解いただきたいことは根幹から保育園の方針ががらりとかわるものではないということです。

開園(今から15年前)から現在まで積み上げてきたものをベースに子ども達が主体的に、そして将来に通じる様々な力の獲得を発達に即し教育的内容を考え、実践していくことと思っております。



うんどうかい(よく動く体)

天候が心配された運動会、順延で8日に開催されました。順延での開催に仕事の都合をつけていただき又遠方から足を運んでいただいた祖父母の皆様、ありがとうございました。

よく動く体づくりはよく遊ぶこと、おおぞら保育園の子どもたちは天真爛漫によく遊びます。よく動く体を作ることと比例するようによく考える頭も作られていきます。

受け身ではなく、自ら考えて遊ぶこと、仲間とより楽しく遊ぶために知恵を出し合ったり、状況にあった思考がはたります。知的なおりこうさんの脳ではなく、生きていくために必要な脳とでもいいでしょうか。よく遊び、動くことで連動して発達すると考えます

運動会での経験をもとに今後も、よく遊び、よく考え、子ども同士で自分達の生活より良くするために知恵を出し合い生活を営んでいくことを願い、共に歩んでいきます。

次回 わらべうたについて②、そして、今の小学1年生の音楽授業について他、書き綴りたいと思います。

(園長 廣部 信隆) 3